



# 携帯電話の電話番号数の拡大に向けた 電気通信番号に係る制度等の在り方に関する意見

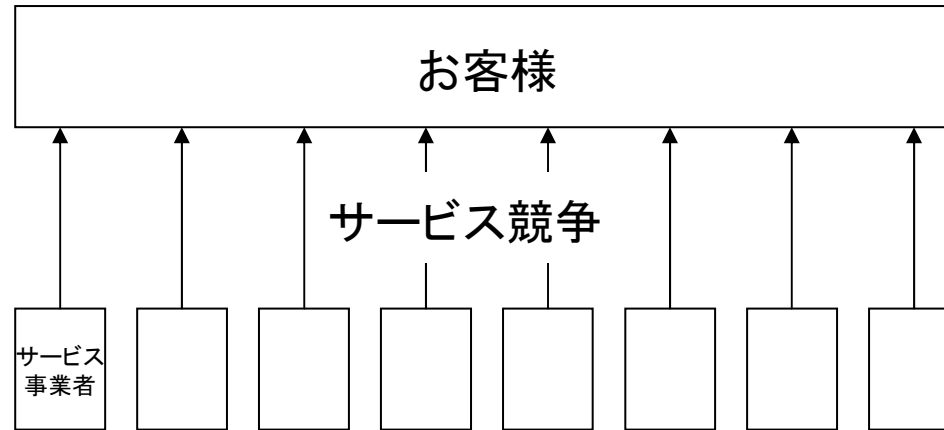
平成23年7月11日

日本通信株式会社

# モバイル競争促進の本質的ジレンマ



顧客視点



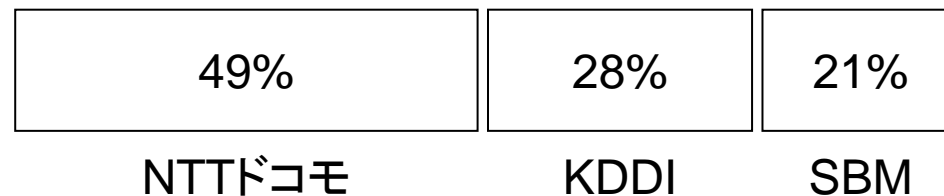
① サービス事業者は多いほど競争に



低廉化、多様化

どう両立させるか？

設備視点



② 設備事業者を増やそうとしても有効に増やせない



数兆円投資が必要

# モバイル・サービス提供の3つの方法



## 必要な投資・事業規模

A. 周波数免許を得て、携帯設備事業者に

数兆円

B. 欧米型MVNO(卸でサービスを再販)

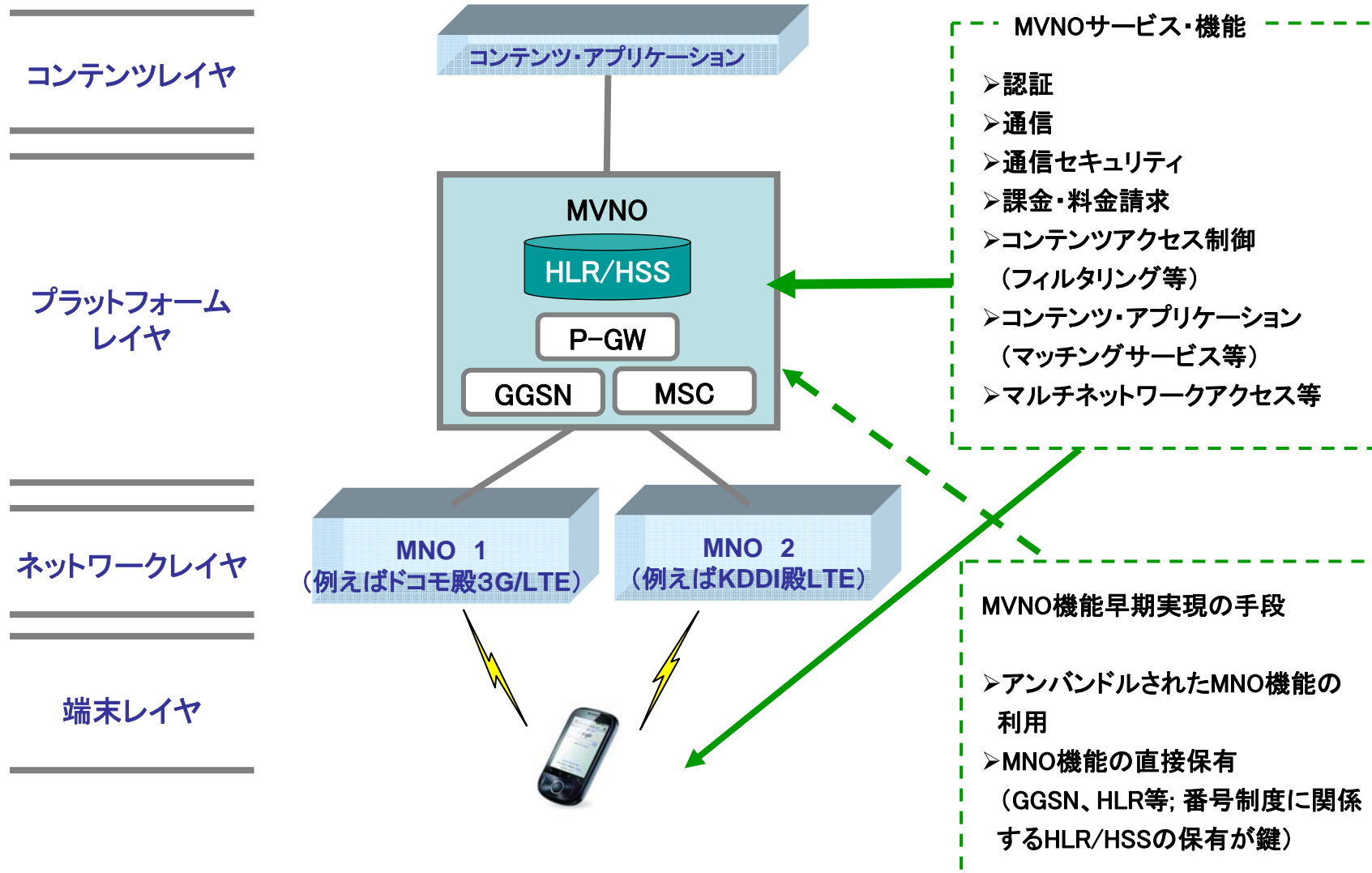
数千億円～  
数百億円

C. 日本型MVNO(接続を伴う)

数十億円～

# MVNOが提供するサービス

MVNOを始めとするサービスプラットフォーム事業者を如何に増やすかが情報通信産業活性化の鍵



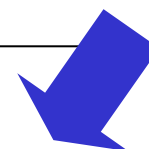
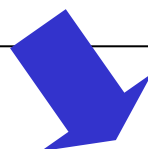
# M2Mサービスに向けた番号利用

## <M2Mサービスの特徴と需要予測>

- 想定されるM2Mサービス需要母体: 約32億台  
(総務省殿資料)
- M2Mサービス需要予測: 10億台規模  
(今後10年間)
- M2Mアプリケーションは多岐に渡ることから、  
「M2M」の正確な定義は困難  
(例: M2Mでも音声通信を伴うアプリケーションが存在)

## <M2M市場形成に向けた課題>

- 通信事業者やサービス事業者による積極的な  
市場開拓が必要
- 技術的課題・機能アンバンドル化の促進  
(パケット着信機能、一斉配信機能等)
- 利用者が番号管理しやすい仕組みの確立
- MVNOへの番号割当て



## <M2M用サービスで利用する電話番号(当面)>

- 080/090番号の継続適用
- 070番号の適用と桁増
- 090-0番号の活用

# 電気通信番号にかかるその他の課題



## 1. 携帯電話サービスへの070番号帯の適用

- PHSサービスの規模やその内容を鑑みると、070番号帯を携帯電話サービスでも利用するのが適当。
- 携帯電話での利用に当たって、利用者への影響は少ないと思われることから、経済効果の少ない取組みやサービス性の改善は不要と思料。

## 2. 携帯電話とPHSとの番号ポータビリティ

- 従来より、番号ポータビリティは経済効果を生んでいると認識されているところ、070番号帯も番号ポータビリティの対象とすれば、その経済効果は拡大するはずであり、利用者の視点からも、ポータビリティ制度を導入することが妥当。

## 3. 携帯電話番号のMVNOへの割当て

- サービス競争促進の観点から、080/090(/070)番号帯をMVNOへも割当てることが妥当。

## 4. モバイルIP電話サービスへの080/090番号の割当について

- 050番号を利用したモバイルIP電話サービスへの需要が高まる中、携帯網においては、固定網利用を想定した国際標準IP電話品質を満たすことは困難。
- 当該サービスを含む全ての携帯電話サービスに対し、同一種類の携帯電話番号を割当てることがグローバルプラクティスに合致。合わせて検討が必要。